

エゾマツ



NO 75号

冬季号

2006年1月19日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

目 次

- | | | |
|----|-------------------|-----------|
| 1 | 新春を迎えて | 会長 川端 功治 |
| | 〈自然との出会い・観察会から〉 | |
| 2 | 草花と楽しむ | 旭川市 室屋 安雄 |
| 3 | 地域の自然観察会のこと | 伊達市 木村 益巳 |
| 4 | 会報について考える | 伊達市 木村 益巳 |
| 5 | 暑寒別岳 | 増毛町 谷 志朗 |
| 6 | わが街 岩見沢市 | 岩見沢 伊東 幸子 |
| 7 | 出会いと別れ | 室蘭市 柏木 末則 |
| 8 | 野幌森林公園 自然観察会に参加して | 札幌市 吉元 良子 |
| 9 | 観察会 | 札幌市 今村ひろこ |
| 10 | 夢見る生活 | 千歳市 竹腰 順子 |
| 11 | 花崗岩「御影石」 | 札幌市 成田 伸一 |
| 12 | 晩秋から初冬の観察会の報告 | 事務局 |
| | 〈 特別掲載 〉 | |
| 13 | 江別の小学生との自然観察会 | 広報部 |
| | 〈 連載 〉 | |
| 14 | 冬・カムイのすむ森—野幌 | 札幌市 小泉 三雄 |
| 15 | やっぱり現地で見たい(3) | 札幌市 内山 恭子 |
| 16 | 忘れ得ぬ花たち | 当麻町 野呂 一夫 |
| 17 | 山の名前の送り仮名について考える | 富良野 南部 栄一 |
| 18 | 地図はこう読もう | 恵庭市 小林 英世 |
| | 〈 特別寄稿 〉 —— 自然情報 | |
| 19 | 野幌森林公園自然ふれあい交流館 | 通信員 濱本 真琴 |
| 20 | ボラレン情報 | 事務局から |

〔巻頭言〕

新春を迎えて

会長 川端 功 治

会員各位には楽しいお正月を迎えられた事と拝察し、慶賀に耐えません。私ものんびりと過ごしているうちに、考えこむようなニュースの報道がありました。それは京都地方で日本の分布南限として大切に保護している植物が衰退し始め絶滅の危機に瀕し、その対策として絶滅危惧種に指定し、場合によっては補植対応策も検討すると報道されました。その植物はホロムイソウ。関係する植物の高山植物編によれば、北海道の岩見沢市の近辺幌向の産で、この発見でホロムイソウ科を新設ホロムイソウ属ホロムイソウが誕生したわけである。そんな事とは露知らず僅か15cm位のイネ科か、カヤツリグサ科の類で、いずれ花か実をつければわかるだろうと高を括って、過ごしてきたのはお粗末でした。これを追いかけるように、雨竜沼湿原の名花コウホネとヒツジグサの名前が改正された事が報道された。

雨竜沼湿原を愛する会「高島光雄氏」が奔走協力して纏め上げたもので花の郵便切手10枚をシート化シテ1000枚作成限定販売することになった。

改名したのは私たちが論議したオゼコウホネかネムロコウホネかは、ウリュウコウホネに改名されました。そして純白であるべき花卉、花芯に色気があるのが話題になっていたエゾヒツジグサがエゾベニヒツジグサに改名されました。これでなんとなく気が楽になりました。

切手希望の方は下記に申し込むと送ってくれます。代金は振り替え用紙が同封されてきます。

電話。ファクス、0125-77-2773、『佐々木』。振り替え代金、1830円

『内訳 80円切手10枚、送料と愛する会に支援金、』

以上



草花と楽しむ（草花との出会い）

室屋 安雄

理科好きは中学校時代からだったと思う。教育大では地学ゼミ（井口・大喜多先生）に入り地質や気象を専攻した。今は、その専門性を発揮することなく地に埋もれている。

では、何故草花との出会いがあったのか。退職後は一貫して草花との付き合いで過ごしているのに・・・

現職の頃は、シロツメクサをミツバと言ったり、ムラサキツメクサをクローバー、またオオバコをガエロッパ等正式な和名は何一つ知らず教壇に立っていた。（恥ずかしい限り）これではと思い、その頃、北邦植物研究会（野呂氏主宰～現在ボラレン会員）・旭川帰化植物研究会（塩田氏代表）に加入、出来る限り観察会に出席し一つでも多くの草花との出会いを作った。

名寄小時代は恵陵高校の吉野先生や名寄農業高校の伊東先生との出会いがあり個人的な観察活動をしていた事を思い出す。中でも、名寄市内には山崎・外山両氏と「名寄野外野植物観察の会」を立ち上げる会の一員として活動できたことが草花との関わりの中で大きな前進の蹟であると自負している。

「草花は足元から」と名寄小学校周辺の草花を調査したことも草花の思い出として残っている。

最近では、植物の国勢調査と称し石狩川（忠別川・美瑛川・空知川を含む）や天塩川（名寄川を含む）の植物調査（4項目）の手伝いをさせて頂いている。石狩川では神居古潭からそれぞれのほぼ源流地点までの両堤防を隈無く

調査。夏の猛暑でも藪に入り、ブヨ、時にはスズメバチと遭遇しながらきびしい環境の中で調査活動をした。出現する植物が300種以上もあることが解り驚いている。

これも現職時代に多くの方々にご指導を頂いた賜と感謝している。

時折、各種観察会に顔を出す機会があり更に関心を深めている。感謝！感謝！

最後になりましたが、私は、平成9年7月に第18回ボラティアレンジャーの研修会に参加し現在に至っています。



オニノヤガラ (藤岡孝一石狩川)

懐かしい会員の名札

北邦植物研究会員
室屋安雄

名寄野外植物観察の会
室屋安雄

1. 地域の自然観察会のこと

木村益巳

「エゾマツ」誌、自然の面白さ・大切さ、各地の活動など、楽しく拝読。「自然と人間の架け橋」になっている沢山のお仲間がいる事を考えると元気が出ます。平成10年アポイ岳の麓でボラレン研修を受け、早7年が過ぎました。

私は、北海道の湘南「伊達市」3万6000人ほどの小さな町で、ささやかな自然系の活動を行っております。主に自然観察会を主宰し、地域の自然系ネットワークづくり、植樹活動、川の自然公園化、都市計画・みどりの基本計画・環境条例などまちづくりへの参加などを行ってきました。

今回は自然観察会(ネイチャーウォッチングクラブ)のことを書きます。8年前に「野の花を観る会」から発展した会ですが、伊達市を中心に近隣をまじえて70名ほどの会員さんで構成、その多くがシルバー世代です。皆さんとても元気で、仕事との両立を図る私などは負けそう!?です。

年8-9回の自然観察会、リースづくり・勉強会などの室内行事を行っています。観察の内容は植物を中心に自然なら何でも有りです。季節の野の花はもちろん、川を遡り山の林道で「命の水」について考えたり、海浜植物の調査の真似事もしました。これに平行してカラーの会報(10頁)を年8~9回発行。現在73号です。

最近始めたことに、カタクリ群生地をのぞきに行きます。まだ2年目ですが、カタクリが蘇り効果観面。シラネアオイが沢山咲いている事もわかり喜びも倍増でした。

ニセコ町がカタクリの大群生地を街づくりに活用しているのを知り、自然豊かな伊達でも、その魅力を引き出せないかと考えたわけです。

笹刈り参加の人は「自然が大好き・だから良いものを観たい」というのが根本です。楽しさあってこそ、「無理のないゆるやかな」会運営が長続きする秘訣ではないかと考えています。

写真は
カタクリ



2. 会報について考える

木村益巳

カラーの会報を発行している経験から、若干の考えを述べたいと思います。植物などを会報で見ってもらう時、その印象の強さで白黒はカラーに遠く及びません。ひと目見て分かる情報量の多さ、美しさのためでしょう。特に自然系の会報ではカラー写真などは大きな役割を果たしていると思います。観察会には出ないけれどカラー会報を見る為に会員になると言う人も結構います。

私の場合、原稿の多くは、文章も写真も Eメールでもらい、文章はレイアウトし直します。写真は明るさ・色合い・シャープさを調整し貼り付けていきます。自分のカラープリンターで印刷し、コンビニのカラーコピー機で印刷します。カラーは B4(B5 二枚分)で 1枚 50 円。白黒はハーフトーンも綺麗に出せて B4 で 1枚 10 円。少し高価ですが、その価値はあります。その後、袋とじしホチキス止め、封筒にいれ、宛名を張り、切手は綺麗な花や動物のものをその都度物色しています。完全に家内制手工業です。そして、泥縄式自転車操業でもあります。

エゾマツ誌のことでありますが、担当の方は大変ご苦労されているとお察しいたします。それを前提に少し提案をさせていただきます。出来ればという程度の意見です。

一部でもよいからカラーがほしいです。又コンビニのカラーコピー機で白黒コピーをとると写真は綺麗にハーフトーンが出て見やすくなります。より一層楽しく読むことが出来るのでご検討いただきたいと思っています。(お金との相談ですよ)

原稿の集め方ですが、

- ① ファイルでもらう方法。フロッピーや Eメールで。これは、編集が楽です。文や写真のレイアウトが自由にできます。写真の縮尺拡大も思い通りになります。
- ② 原稿を紙でもらう方法・写真なども紙(プリント)でもらう。これはレイアウトが不自由だったり、ワープロ打ちの手間がかったりどちらも大変かもしれません。

最近カメラもデジカメが主流になり、結果としてパソコンで管理している人が多くなりました。そうすると、①の条件に合致するわけです。気をつけたいのは、カラー写真をそのまま白黒でコピーするとトーンが潰れて不自然になることです。ひと手間かけてソフトで白黒に変換して確認して使うと良い結果になります。

より見やすい会報になってほしいと言う願いからの提案です。出来ることがありましたら参考にさせていただきたいと思います。

今回は、増毛町のシンボル「暑寒別岳」の登山コースについて紹介したいと思います。

増毛山塊は、暑寒別岳(1491m)を主峰とし、群別岳・浜益岳・雄冬岳・浜益御殿等の1000米クラスの山並みから成り立っています。

登山ルートは、暑寒コースと箸別コースがありますが高山植物や紅葉を見るなら平坦な道のりの箸別コースが最適です。このコースは、山小屋までの交通手段がないので注意が必要です。

7月初めから半ばにかけて花の見ごろを迎え、地元の中学生や高山植物を観る会などの登山が行われます。

今回は、箸別コースの案内をしたいと思います。このコースは、山小屋から平坦な道のりが5合目付近まで続き、6合目半ば付近まで視界が開けないのが難点です。6合目を過ぎてしばらく歩くと視界も開け、日本海の大海原と増毛や留萌の町が一望でき、さらに進むと7合目のお花畑が待っています。

7合目の雪田には、銀杏の葉に似て小さな星形の穂をつくって咲くイワイチョウ・黄色の大きな杯を思わせるシナノキンバイソウ、淡紅～淡紫色のショウジョウバカマ等が目を引きます。

右斜面には、アオノツガザクラなど、色鮮やかな高山植物に圧倒され、疲れもいっぺんに吹き飛んでしまいます。

7合目下部から8合目に向かって急な登りが続き、足元に注意しながら歩を進めます。左側の斜面には、この山の女王ともいえる鮮やかな紅色のエゾツツジやハクサンチドリ、ヨツバシオガマ等の植物が次から次へと変化を見せ、優しく迎えてくれます。



8合目～9合目にかけての鞍部では、チングルマが吹き上げる風にゆられ、左斜面には、枝いっぱい黄色の花を咲かせるウコンウツギが見事です。

馬の背を越えながら這い茂るハイマツの根元には、ピンク色のリンネソウが可憐な姿を見せて思わず膝を折って覗き込むほどです。

9合目の台地には、背丈わずか10糎足らずのミヤマリンドウ、北側

の台地には、増毛固有のマシケゲンゲが咲き乱れ、その美しさに時の経つのも忘れてしまいそうです。

9合目の分岐点から左手に折れ、ハイマツ帯を通り過ぎると岩の間にミヤマオグルマやミヤマダイコンソウなどを見ることができ、やがて標高1,491米の頂上に到着です。

頂上からの眺めも良く、晴れた日には、遠く羊蹄山や利尻富士・十勝岳連峰等の素晴らしい景色を見ることができます。眼下には、雨竜湿原の池塘が陽光にきらきらと輝き、吹き上げる谷風を頬に受け、最高の気分を味わうことが出来ます。ファインダーから覗く西暑寒岳の尾根が一段と輝いて見えます。



今回は、「暑寒別岳」登山コースの一部を紹介いたしました。暑寒コースの1,225米の扇風岩からの眺望や沢に流れ落ちる瀧、沢登りなどのコースでも選ぶことが出来ます。

是非、身近な山の一つとして夏場にでも脚を運んで、その素晴らしさを味わってほしいと思います。

皆さんとの出会いを楽しみにしております。

北海道にはアイヌ語に因む地名が多いなか岩見沢の地名の由来は面白い。市内を流れる川のなかに幾春川と言う趣のある名の川があり岩見沢市内の元町と北本町を狩野橋が結んでいる。この橋のほとりに岩見沢発祥の地記念公園があり記念碑が建てられている。明治の初め開拓に入った人々の労苦は筆舌につくせぬ大変なもので山を切り開き道を造ったという。そんな中で山あいコンコンと沸きだす泉を見つけ人々はその湯につかり疲れを癒したと言われている。その湯浴みが転じて現在の岩見沢の地名になったという説が（その他にも諸説があるが）最も有力である。岩見沢は人口八万五千にも満たない小都市ではあるが私は誇れるものを三つあげたいと思います。

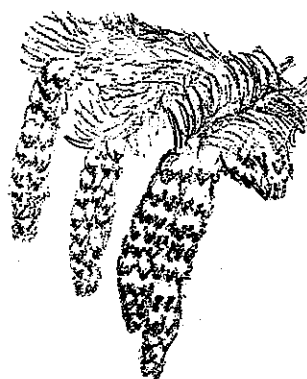
- 1、緑がたいへん豊かで美しい街であり、地形に富み緑を生かした人々が安らげる大小さまざまな公園が沢山あること、そして なにより野幌原生林にも匹敵する利根別原生林があること
- 2、人々が純朴であり凶悪犯罪が少なく静かな街であり、暴走族も殆ど見られず、安全な街であること、また最も、喜ばしいもの それは道内でも有数な温泉保養地であること、
- 3、最後に『交響詩 岩見沢』という素晴らしい歌曲を有し折にふれ歌われていること、殊に作詞も作曲も岩見沢出身者であることが誇らしい、

私は札幌より岩見沢に移りもはや六年が過ぎすっかり岩見沢の住人になりました。静かで平安な日々を送れること、そして沢山の友人も出来ました。しかし何処の地方都市にでもいえることではあるが、そして緩やかではあるが人口が減少しつつあること、そして大型店の進出により市街地が空洞化しつつある事が気掛かりではある。しかし時代の流れで、これも止むを得ないことなのであろうか？ 課題ではある。

花 おりおり 「エゾマツ」

北海道を代表する木。マツの名はつくが、トウヒ属で、幹はまっすぐのび、樹形は円錐状。枝はやや垂れ、葉は長さ1-2センチ。

北海道の道木である。ただし、アカエゾマツも含む。これは枝が水平、樹皮は荒く葉は1センチ以下で短い。湿地を好み、材は勝る。いずれも葉は尖り、堅く、果実は垂れる。
「朝日新聞」



出 会 い と 別 れ

室蘭市 柏木末則

人との出会いはふしぎなもので必要な出会いが多いと言う。

05年の夏、私たち夫婦はふとしたキッカケで和歌山の女性と知りあった。洞爺湖の景色を楽しみ黒松内のブナ林へ昼食をと思い、道の駅に立ち寄りコーヒを飲みホットドックを食べていると同じ様に昼食が終わり出掛ける様子、荷物も多く道外の人と思われた！何も気にせず私たちも出発、いつもの道を国道36号方面へ牧場をすぎ、左折したら、おや！前に昼食時に見かけた女性が、つつい出来心で声をかけると海岸線を通り札幌方面に行くと言う、少し話しをしたら今朝の景色を見せたいと思い再び洞爺方面に、途中に豊浦のインデアン水車などを見て海岸線を見ず山側に入って景色を堪能しここで別れが普通なのだが、どうしても家からの夜景を見せたくなり一言一泊して行きなさいと言ってみた。その女性は約一週間我家に泊まり、その間に水生昆虫の勉強にネイチャーセンターや函館のイカと熊石のアワビ、それに自然への思いを深くして和歌山へ帰って行きました。

ひと夏の思い出と言うが、一声の声掛けで自然への思い入れや、興味がわいたり一個の花の名前、トリの名前などからでも、こんなに楽しく友人になれたり、人と人、人と自然、自然から人へと、かかわりが深くなり心もかよえる人へと変化する事を痛感した夏でした。

ボラ・レンの皆様もあの時、声を掛けていればと、尻ごみせずに気楽に声を出せば、自然と相手も増えていき自分も知識が増えてきます。もちろんこんな楽しい事だけではありませんが、一声出せば自分の世界が広がります。ガイドにもおおいに役立つと思います。

ボラ・レン以外にも現在、登別市鉾山ネイチャーセンターにお世話になり、ネイチャーガイドが出来る様になりその出発点がボラ・レンであることに感謝しています。

* 次号のエゾマツの発行

次号（春季号）は3月下旬発行の予定

内容 自然、環境にかかわって自由に書いてください

形式 この機関紙の版（B5）で1、2枚位

皆さんの原稿を待っています 原稿の締切りは3月15日

野幌森林公園
自然観察会に参加して

2005. 11. 3
吉元 良子

初雪が降ってもおかしくないこの季節、曇り空ではあったものの風もなく、とても暖かい一日でした。

大沢口前に集合し、4班に分かれて、レンジャーの方々の先導でエゾユズリハコースから志分別を経由し森林の家、昼食後は、基線から中央線に入り、大沢口に戻るという行程でした。

さすがに、紅葉のピークは過ぎ木々の葉も残り少なくなっていました、所々に残ったヤマモミジ、イタヤカエデなどが初冬の森に輝いていました。

カエデ科の種類はとて多く、その見分け方などを葉っぱを手にとって教えていただきました。カサ～という落ち葉を踏む足音も心地よく、かすかに香るカツラの葉、木の実に群れるカラ類の鳴き声、森の中を歩くだけで“幸せ”を感じます。

でも、所々に昨年の台風のツメ跡が残り、その無惨な状況はとてショックでした。倒木の跡には、苗木が植えられ、森の再生へ向けての一步が始まっていました。

「昔話に出てくる“おじいさんはシバ刈に”のシバはサワシバのシバのことだよ！」とレンジャーの方。「エーッ！」私にとっては目からウロコです。

なんとなく、草を刈る姿を描いていたのは、私だけでしょうか。

これは是非、友達に教えてあげなくちゃ。図鑑片手に歩いているだけでは得られない貴重な知識をいただけるのも、この様な観察会の醍醐味です。

森林の家も冬の閉館に入るというお話でした。森は長い～ 冬の間、雪の中で春の若葉を生み出すエネルギーを蓄えるのでしょうか。

野幌森林公園とお付き合いを始めてから 10 数年、数え切れないほど、足を運んでいるこの森は私にとって“母校”の様な所です。

動植物についてだけでなく、今まで気づきもしなかった自然の営みについて たくさんのお話を教えてもらい、また、多くの人達とも出会う事が出来たからです。

この森に入るときはいつもワクワクしてしまいます。

ツルマサキの赤い実、ナンバンハコベの黒い実、アマチャヅルの青い実、クサギのアイ色の実、森には宝石もありましたよ。大沢口に戻った時にポツリ、ポツリと雨。今日もまたレンジャーの皆様のおかげで、楽しい“森の学校”を体験出来ました。

野鳥の生態をこまやかに観察しあう

今村 ひろこ

11月23日〔勤労感謝の日〕西岡公園で参加者7名、会員10名参加のもと 水源地一周コースということで 数年ぶりに池の結氷が見られたと言う肌寒い日でしたが、観察会が催されました。

西岡公園の水源地は明治41年に旧陸軍の水道施設として月寒川をせき止めて造られたもので140種の野鳥が観察されているほど緑豊かな 市民の憩いの公園です。

鳥にくわしい 荻野さんの案内で出発です。まずは公園事務所横のイチイの木の上で、エゾリスが3匹 木の実を食べていました。木の下にはおびたしい赤い実が小枝とともに落ちていました。よく見るとどれも中の種がありません。歯先を上手に使い抉り取って食べているようです。甘いゼリー状の仮種皮を食べないで硬い種を食べるなんて、人間界では口にはいけないといわれているのに解毒作用があるのでしょうか？ちなみにヤマガラも種の方だけを食べるそうです。

西洋風の木造六角形の美しいたたずまいを見せる 文化財となっている旧西岡水源地取水塔の前を通り 騒がしいひよどりの鳴き声にひかれ たわわに実るアズキナシのそばへ行きました。数人で実をチョイと横取りし試食させてもらいました。なんと”美味”小豆のような実が付き、ナシのような花が咲き、リンゴのような酸味のあるフルーティな果実、ナナカマドの仲間バラ科 なんと素敵なお木なのでしょう。カラスギ、木肌からハカリメなどといわれていますが冬 鳥達にとって貴重な食糧の木でもあるんですね。

水辺に着いて 結氷の端 流れのある隅に十数羽一塊になっているカモ類の話からおぎのさんの話は はじまりました。おおすじの話の内容は(エゾマツ No.70 10月27日号 荻野さんのコーナー カモ 14ページ参照ください。)当日は、目先を変えて 鳥のオテイレウオッチング をということでじっくり観察して見ました。水浴び、羽根はばたき、腰ふり、腰のところより油をとり 翼に塗りつける、この繰り返しをしています。カモにとっては生きていくうえで大切な行程なのですね。

炭焼きの木を取ったり、常に山火事をおこしたりしていたので 林としても若い姿がある林海コースを通り自由広場のえさ台の前へカケス、ヤマガラ、シジュウカラ、ハシブトガラ、ヒガラ、コゲラもいます。先に会ったエゾリス、ヤマガラもカケス同様 貯食しますがカケスは90%たくわえた場所を覚えているそうです。

広場は時期になると山桜が美しく、中央の大きなハルニレには

●日の当たる方角に地衣類、日陰方向にはコケが生えているなどと、先輩諸氏の説明を受け

● イタヤカエデはカエデ科の中でも樹液の糖度が高い

まだ 緑鮮やかな クルマバソウ、イチヤクソウを見ながら 道の左右に違いが見られる

●ササが 。。。ご説明いただきましたがここに書くには私の知識が乏し過ぎますので次回ぜひ「えぞまつ」にとりあげていただきたいです。

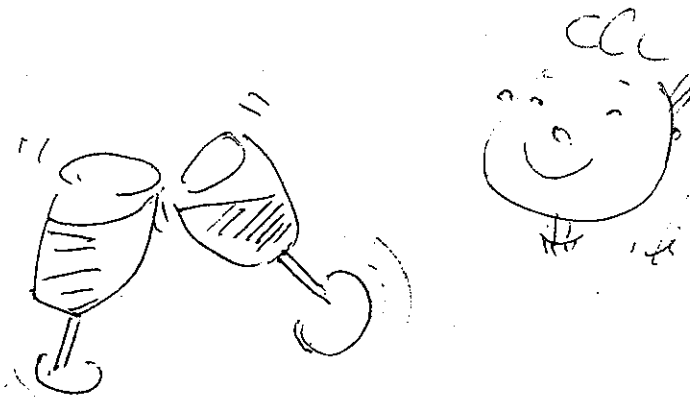
途中『池での魚釣りを禁止します。豊平区土木事業所』と看板がでています。必ず魚がいるということ！（コイ、ワカサギ、など十種類の魚が生息しているそうです。鳥も豊富なわけです）いよいよ終盤になる頃 光を受け風を避けるように地面に張り付く様に根生葉をだした ロゼットを見つけました。ヒメカハルジョオンか？「根を抜いたらわかるんですね。」の声 多年草と1-2年草の違いだからそうなのか？ と思っていたら後日先輩に越年草ムラサキ科のキューリ草とお聞きしました。ワスレナグサそっくりな花で葉や茎をもむとキューリの香りがするとか！春に会いにいきましょう。

香りといえば クルマバソウも乾燥させてワインの香り付けに使用するそうで、含まれるクマリンがワインの品と力強さを引き出すのでしょうか？

ということで11月の観察会も無事終了しました。

2006年ボラレンの仲間の健康と活躍に

乾杯“



夢 見 る 生 活

千歳市 竹腰 順子

環境運動も平和運動もしておりませんが、地球温暖化、あちこちの国で起きている内戦などのニュースを聞くと私たちはどうしたらよいのだろうか？ 何かできることは？——考えているだけの私ですが「食の安全」について不安をもっているののでせめて自分の食べる野菜だけでも自家菜園で育てた物をと、5-6年前から真面目に挑戦しています。

生ゴミは燃えるゴミに捨てることはせずコンポスターで堆肥にし使っています。

ここに住んで13年ずいぶんミミズのたくさんいる良い土になってきました。(実はミミズを見る度に悲鳴をあげているのですが) 無農薬有機栽培です。

5月10日頃になると絹さや、春菊、山東菜、こまつな、大根、人参の種を蒔き毎年いただくレタス、サンチュの苗は小さなトンネルで育てます。3週後くらいからそれらの野菜が毎日食卓に登場することになります。じゃが芋、トマト、ししとう、ピーマン、いんげんなども次々に植えます。みょうが、ハーブ類(バジル、タイム、セージ、パセリ、山椒)も植えているので6-10月頃までは買わないことにしています。ちなみに2人家族です。

夫は実のなる木に興味がありブルーベリー、すもも、ラズベリー、ブラックベリー、柿、りんご、ジュンベリーなど収穫はろくに望めないのですが「今年こそ。」と無駄な努力をしています。でもラズベリー(木いちご)はいつも実をたくさんつけるので果実酒にシロップにと楽しんでます。

7月下旬になると秋大根を植え、人参、じゃが芋の収穫、10月頃ニンニクを植え、チューリップ、水仙の球根も植え(水仙は特に好きな花なのでいつの日か家の周りが水仙だらけになることを夢見て毎年球根を買っています) 秋おこしをしてコンポスターの堆肥、落ち葉を畑に入れて一年が終わります。自分が丹精して育てた野菜は、どんなに小さな物でも捨てられないので不思議なものです。

つい最近、ターシャ・ラューダーという人(90歳)の番組をNHKで見て、心が癒されました。バーモンド州の山奥に広大な土地を持ち、花や野菜を育て絵本を作りながら暮らしている人です。広い土地もない私には同じ様に暮らすことは無理ですが科学と経済だけが突出した今の時代に花のせわをし、動物に囲まれ、手作りし、ゆったりと毎日を生きて、そんな生活、少しでもまねる事ができたら、幸わせと思いました。



花こう岩『御影石』

成 田 伸 一

黒いゴマの入ったおむすび、お盆や彼岸に墓地で見掛ける白い墓石これが花こう岩である。石材名御影石と呼ばれて居る石で、白いごはん（石英、長石）黒いゴマ粒（黒雲母）の三種類の鉱石で出来ています。従って花こう岩のかけらをもし石材店の前で入手しますと鉱石の標本を三種類入手した事になります。神戸市御影が主産地より御影石と呼ばれて居ります。石英は酸化鉱物で SiO_2 で色は、無色、白色 ガラス原料等の為採掘され、肉眼的な結晶に結晶したものを水晶といい、古来よりその清純な美しさで人を魅了し水晶は鉱物の世界から派遣された全権大使ともいわれている。

長石は鉱物中最も分布が広く、地殻の重量の50%を占め、数トン単位の結晶があるそう。化学式は、 $K(AlSi_3O_8)$ 珪酸塩鉱物で、白色、無色、淡褐色、青緑色と20種を数える鉱物グループで特殊な元素を含むものを除くと、二つのサブグループに分類される。

その一つは、カリウムを主成分とするカリ長石で正長石、微斜長石、サンジンの三種ありサンジンは火山岩中に、正長石、微斜長石は主に深成岩、変成岩、ペグマタイト、熱水脈中に産出する。標本として出回っているものはペグマタイトの晶洞中のものが多い様です。

黒雲母これも珪酸塩鉱物でカリウムが主成分としている。

化学式は $K(Fe, Me)_3(AlSi_3O_{10})(OH, F)_2$ と少し長い。

因みに白雲母は $KAl_2(AlSi_3O_{10})(OH, F)$ で中間の灰色雲母がほとんど存在しないのは白雲母と黒雲母がイオンの配置が少し違う別のサブグループに属していて、中間型が出来ない為である。

墓地でみられる黒い墓石は、カンラン岩で黒御影の石材名で 珪酸塩鉱物、道内では様似町幌満で採掘されています。札幌地下鉄駅の乗車券売り場でも、黒い石（カンラン石）がみられます。花こう岩は深成岩の一種で、同様のトータル岩や閃緑岩を含めて花こう岩類と総称され、日本では花こう岩類の多くが中性代～第三紀に作られたが、穂高の滝谷では第四紀の初めの約200万年前の世界最新の花こう岩があり、地下深所の深成岩が山でみられるのは、その岩体が隆起して侵食をうけ地表に現れたから。

北海道の山々の多くは、玄武岩～安山岩～デイサイト（石英安山岩）～流紋岩と一連の火成岩の安山岩が多い。手稲山、藻岩山、空沼岳、余市岳等は輝石を含む輝石安山岩です。

手稲山は、造山運動の時古い安山岩層の下より新しい安山岩が隆起して何層かが重なっています。

花こう岩は他の岩石より風化に弱く長石、石英、黒雲母に分離しこの様に風化した状態を「真砂」(マサ)といいます。

京都には、沢山の神社仏閣や、名のある庭園がありその多くに白い砂が敷き詰めています。これが花こう岩の風化されて出来た砂で長石です。

長石は、石英と同様白色ですが透明感と光沢感がないので半明か容易です。

石英の方は結晶化したものを水晶と呼ばれ装飾用の宝石の仲間として利用されます。

日本アルプスは、1881年(明治14年)にヨーロッパのアルプスにちなんで英国人ゴーランによって命名され、後にウェストンにより世界に紹介された。

日本国内の花こう岩の主な分布は、日本アルプスの東縁の糸魚川～静岡構造線、伊那山地より静岡迄南北に、静岡より西方に走行している中央構造線(先の阪神大震災で有名)とこの地域(北アルプスの東縁)滋賀近畿中国地方、南西日本に多く分布しています。北アルプスの黒部、表銀座、裏銀座の縦走路は花こう岩である。

中央アルプスも木曾駒ヶ岳は花こう岩の山として有名です。

一方南アルプスは、甲斐駒ヶ岳、鳳おう三山等一部の花こう岩の山を除くと殆ど全域が四万十層群(四万十帯)と呼ばれる中生代の堆積岩類またはその変生岩です。

堆積岩は砂岩、泥岩、粘板岩、チャート等で、変成岩には結晶片岩、緑片岩等があるが、これ等の岩石は風化して、岩塊から細い泥までの様ざまな大きさの岩屑となります。

これが風や雨水などで移動して混じりあうと、表土が安定し且つ通気性や保水性がいいという、高山植物の生育には理想的ともいってよい土地ができます。

このことが、北岳を初め、南アルプスの山々に広大なお花畑の展開する理由。

この様な場所はあるようで中々なく、北アルプスでは白馬岳付近、鹿島槍ヶ岳付近に僅かにみられるに過ぎない。この事が北アルプスで大規模なお花畑のみられない要因です。

では何故南アルプスの地質はとの疑問には、最新のプレートテクトニクス理論は長くなるのでまたの機会として、。

私ごとで恐縮ですが、10月に木曾駒ヶ岳に花こう岩を眺めに行ってきました。

駒ヶ根市街地の近辺を流れる太田切川はその川原が真っ白、太田切花こう岩以外の岩塊は全くないのである。壮観の一言のみでした。

駒ヶ根市街地より3キロ程度の処に長野県内五山の一つの光明寺があり草太郎温泉もある。この辺に駐車場がありここより上は太田切溪谷となり一般車輛は通行禁止となる。

この周辺には、先の大田切花こう岩と、木曾花こう岩、伊那花こう岩がある。

この三種類の花こう岩を見比べたいとの思いで木曾駒ヶ岳に出向いた次第。

バス終点のしらべ平より標高約2600m高地の千畳敷までロープウェイで7分程度

ここ千畳敷は、モレーンの上にホテルがあり、千畳敷カールの底になる場所である。

左方向を見上げると、極楽平カールでこの両カールの上縁が稜線で左手は宝剣岳山頂でこの稜線を南下すると空木岳である。

千畳敷より見上げられる白い岩々は木曾花こう岩である。このカール底よりの約300mの標高差は高齢者にはキツイが稜線周辺で階段状になった岩石はヒン岩である。

ヒン岩は半深成岩であり、岩体表面に縞模様があり、片磨岩とは縞のより方で判別します。

ここ、乗越浄土には宝剣山荘、天狗荘があり、宿泊と軽食ができます。

カール内には高茎植物群落があり、総ホウが黒紫色のアザミは黒唐飛廉（飛廉は中国名でアザミの一種）、エゾトリカブトに良く似ているが、花に曲毛のあるサクライウズー一名キタザワブシは絶滅危ぐ種です。カール上部の岩の間にはチシマギキョウ、ツガザクラの仲間も花はなくてもみられます。山小屋の北東方向に駒飼池カール、その先方に濃ヶ池カールと続いている。山小屋の北に中岳2、925mで下りた所に頂上小屋がありここよりあり南西方面の縦走路に三の沢カールが眺望され右手には駒飼池カール上部には階段状の構造土がみられます。これは強風地で雪がほとんど積らない場所にみられる周氷河地形であり、これだけ大規模な皆状土の斜面は日本の山岳でも珍しいとされている場所で見の価値あり、一登まりで木曾駒ヶ岳2、965mの頂上で神社がある中央アルプスの主峰となっています。千畳敷カール、極楽平カールの羊背岩（氷河期に氷で削られ円形状上部に溝のついた石）、しらび平終点一つ前のバス停より登るコースにあるベグマタイト中の石英、電気石（トルマリン）、ホルンフェルス中の紅柱石、片状ホルンフェルス（領家変成岩）中のキン青石と多くの鉱石がみられます。キン青石は側面では青、他面では暗褐色の石で、京都では桜石と呼び銀閣寺庭園の出口通路の敷石や塚の基礎石の中にもみることができます。

季節に捕われず何時でもみられる地球内部からのメッセージに親しんでみませんか。

晩秋から初冬の観察会報告

昨年(去年)の11月3日(木)、11月23日(水)、12月4日(日)と晩秋から初冬にかけての観察会がおこなわれました。ボラレン主催のこの観察会は一般参加者がもう少し集まってくればとの反省はありますが、参加者全員が満足した活動になりました。

◆11月3日(木) 晩秋の森観察会(野幌森林公園 登満別コース)

11名の一般参加者、9名の会員が集まったの観察会になりました。登満別コースは観察会のコースとしては初めてのコースでしたが、中間地点の登満別園地には「森林の家」があり、昼食やトイレを利用することもでき、なお且つ変化富んだコースなので、次年度の計画にはぜひ取り入れたいコースです。

晩秋のこのコースのあちこちに、ハウチワカエデやヤマモミジの紅葉が残っていて、秋の終わりの風情を味わいました。今回は、オシャクジデンダ、イワオモダカ、ホウライシダという着生シダを確認できたことが収穫でした。また「森林の家」では、森林に関する展示物もあり、昼食時間に展示物を見ることもできました。

◆11月23日(水) 西岡水源地自然観察会

この時期、水源地の水面に氷が張っていることは稀ですが、今回は一面氷が張って水鳥(マガモ)は、月寒川への流れ口にかたまっていました。一般参加者8名、会員8名での観察会になりました。

管理事務所横のイチイの実を食べにきている、エゾリスの可愛いしぐさをじっくり見ましたが、イチイの果肉をたべると思っていました、中の種子の部分を食べているのには驚きです。種子にはアルカロイドが含まれているはずなのですが、エゾリスには影響がないのでしょうか。冬の間、餌台が置かれている場所では、シジュウカラ、ヒガラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ等が観察できました。

◆12月4日(日) 12月の森の観察会(野幌森林公園大沢コース)

いつもですと、雪の上を歩く観察会なのですが、土の上を歩く観察会になり、本州の冬の森を歩いている錯覚を覚えました。ふれあい交流館から大沢コース～大沢園地～桂コースをゆったりとした気分で初冬の雰囲気味わいました。

今年は、サワシバやアサダの房状の乾果があちこちで目にすることができました。また、イタヤカエデ、ハウチワカエデなどカエデの仲間の翼果、アズキナシの赤い果実などをしっかり見ながら歩くことができました。

大沢園地付近では、風もなく晴れた空を飛ぶオオタカの姿を見つけました。野鳥の姿はシジュウカラ、ヒガラ、ゴジュウカカラ、コゲラ、アカゲラ等が確認できました。

<9月27日 野幌森林公園で江別第二小学校のみなさんと>

とって も 楽 し い 自 然 観 察 会 広報部

9月27日(火)、江別第二小学校3年生の4クラス約150人のみなさんと天候にも恵まれとても楽しい実り豊かな自然観察会を行いました。桂コースと大沢コース、二つのコースにわかれ大沢園地で出会いながら戻る3,7kmの行程でした。こうした観察会は初めてでしたが、生徒のみなさんが樹木、草花、鳥、昆虫そしてキノコなど多くの分野にとっても関心をもっていることに驚きました。特に女子は美しい花々、男子は動物、虫たちに興味をもっていました。男子のなかには「昆虫博士」もいるようでした。

今後とも自然に親しみ謙虚な気持ちで学びながら生徒たちと交流をしていきたいと思っています。

私たちの拙い説明にもかかわらず、生徒のみなさんからうれしい手紙をたくさんいただきましたので、感謝の気持ちをこめてここにその一部を掲載します。

・森林公園ではどうもありがとうございました。ぼくは学校にある木と森林公園にある同じ木を調べてみたらいっぱいありました。田村さんのおかげで森林公園のことがぐわしくなりました。こないだはどうもありがとうございました。Aさん

・27日はお世話になりました。家で一回スズメバチを見たことがあったけれど家で見たよりも大きかったのでびっくりしました。ありがとうございました。

Bさん

・ボランティア・レンジャーのみなさんへ。ぼくはみなさんにいろいろおそわってべんきようになりました。オオスズメバチがこわかったです。いろいろお世話になりました。

Cさん

・森林公園のことを教えてもらい、ありがとうございました。かがいっぱいいて、それを食べているトンボがとてもかわいかったです。

Dさん

・森林たんけんの時は、いろいろせつめいしてくれて、どうもありがとうございました。来年の三年生をよろしくお願いします。Eさん

・森林レンジャーさんへ。森林公園たんけんの時、どうもありがとうございました。とてもたのしかったです。また、たんけんに行きたいと思いました。

Fさん



- ・森林レンジャーさんへ。このあいだは、どうもありがとうございました。木のことをよくすることができました。 Gさん
- ・この前はいろんなことをおしえてくれてありがとうございました。また、きかいがあったらいっしょにやりましょう。 Hさん
- ・森林公園たんけんの時、いろいろな花とかの名前をおしえてくれてありがとう！ 森林公園たんけん楽しかったです。 Iさん
- ・森のなかをあんないしていただきほんとうにありがとうございました。さいしょくつき虫をみて、かわいいなーとおもいました。いまでもくつき虫をかっています。 Jさん
- ・こんにちは！ この前たんけんしたMです。教えてくれて一番よかったのはびっくりタネです。さわったらびゅ！って出てくるから、楽しいのです！とても楽しかったです。ありがとうございました。 Mさん
- ・たんけんしてわかったことは、台風でたおれた木があるということです。いろいろおしえてくれてありがとうございます。 Nさん

・森にたんけにしにいってわたしのしっているどうぶつ、しらないしよくぶつにあえてとてもおもしろかったです。そしてべんきょうにもなりました。ありがとうございました。 Oさん

・いろいろおしえてくれてありがとうございました。3Kmもあるいたのでつかれました。カツラがいいにおいわかりました。 Pさん



冬・カムイのすむ森～野幌

札幌市東区 小泉 三雄

何年来書きとめておいた観察記録の中から四回に分けて執筆します。

04年2月8日(日) 曇り時々晴れ

駐車場そばの古いハルニレにはエゾフクロウが、(謙に於て1995年2月12日)相変わらず人だかりが見えた、フクロウは昔から縁起の良い鳥とされてきた、古代ギリシャでは「知恵の神様」日本では「福来朗(福が来てほがらかになる)」「不苦勞(苦勞や困難を避ける)」などと言われている。野幌のフクロウも森とともに多くの人々に「福が来る」ように見守っているのだろう。フクロウたちはいくつかの特技・能力・秘密がある、そのひとつは消音効果のある羽毛、羽音を立てず飛び獲物を捕らえることができる。主食はノネズミだ、一晩に平均3匹は補食しているとのこと。その確かな証拠、消化できない一部を丸めてはき出した塊(ペリットという)を発見、中にネズミの骨(頭部2四分)と毛、大変めずらしいので参加者に見せた、デジカメに納めた方もいた。

冬の林は野鳥の姿を目にしやすい。季節的にも最も種類の少ない時期。アカゲラ、コゲラ、ウソ、キバシリなど15種が観察できた。キツツキ類は1年中見られるが、冬ならではのチャンスに出会った。オオアカゲラとヤマゲラ至近距離で木の幹を「ついばむ」姿、あっち、こっちの班で大はしゃぎ「クマゲラがいれば最高ね」と、笑い合った。

03年2月9日(日) 曇り時々晴れ

冬の樹々の枝陰にちらちらする小鳥たち、林の濃密な空気を吸って、光を浴びて、林間の小道をそぞろ歩き、冬の観察会の楽しさを満喫した。灰緑色のヤドリギがひときは目立っている。12月1日には赤い実をつけていたが、鳥に食べられたのか既に実は見えない。果実の中に強い粘性があるそだがなぜ必要なのかわかっていない。こんな説がある(四つ)メモを見ながら参加者と共に考えてみた。

からきら輝く雪原には動物たちの足跡が残されている。エゾユキウサギの「跡」からどんな事を知ることができるか推理した。このようなサインが見られる森であることに嬉しさを感じ、今まで気づかなかった野性の世界が少し見えたような気がした。

最後に、自然ふれあい交流館で昼食をとり雑談、「詩を書いている」初参加の60代女性が「こんなに楽しいと思わなかった」と、遠方歌志内から参加の20代女性が「実際に歩き、触れた体験で興味が深まった、もっと知りたい」と、感想を述べてくれた。

やっぱり現地で見てみたい！！ (3)

内山恭子

随分まえのことになるが「マウントクックリリーって、百合でないんですってね」と友達が言った時は「本当？」とびっくりしました。長い間 Mt. Cook (標高 3,754m) の麓に咲く清らかな百合と言うイメージを持っていました。それから、憧れの花のひとつになりました。

ガイドブックによるとニュージーランドへのヨーロッパ人の初上陸は1642年のことでオランダ人の探検家エイブル・タズマンがこの国を発見、その後100年余り経った1769年イギリスの航海家ジェームズ・クックが再発見したとなっています。そのキャプテン・クックにちなんで名付けられたとされるMt. Cookが最初にその名を記録されたのは1851年のことと記載されている。その時花の名前も付いたのだろうか。



マウントクックリリー
妹は「シュウメイギクとそっくりね」と
いう！！

この花、マウントクックリリー (Ranunculaceae lyallii) をみたのは、Mt. Cookを望みながらフッカーレー (Hooker Valley) へのハイキングコースでした。私達は小雨の中を歩きはじめました。途中の平原はスピアグラス (Horrid Spaniard) という長い剣のような葉を持つ植物が目立ちました。そこを抜け、ゴウゴウと音を立てて流れる川に懸かるつり橋をわたると、ゴロン、ゴロンとした岩の間にデージーやヒービー (Hebe) の仲間や高山植物が沢山でてきました。ほとんど白い花ばかりです。見たことのない花ばかりなので雨にもめげず写真を撮りながら歩きました。

第2つり橋を渡ると細い流れが見え隠れしてきました。この付近からマウントクックリリーが目立つようになり、やはり水辺の所が好みようです。名前の謂れのように厚手の睡蓮 (Water Lily) のような大きい葉は縁が波うっています。その間から花茎をまっすぐ立ち上げ白いフワフワした花卉は

シュウメイギク (*Anemone hupehensis* var. *japonica*) の平板さと違いシルクのような気品がありました。大きな花 (5、6cm) の中心部はグリーンメシベで、そのまわりは沢山のオシベです。水滴を付けながらアッチコッチに大きな株になって咲いていました。高さは1m以上あります。一茎に5~15個の花を咲かせています。本によると世界最大のキンボウゲ属で高さ1.5mにも達する壮大な多年草となっている。感激しながら歩いている間、雨はドンドン強くなっていきました。小道は見る間に水の流れとなり足元は水しぶきでぬれはじめます、あまりにも激しい雨に途中の小さな小屋で休憩。来た道はすでに小川のようにびっくりです。どんよりとした雨雲にかすむ山肌はいくつもの小さい滝を作っていました。一変した風景に私達にはもう花を見る余裕はありませんでした。そこからは花でなく足元を見ながら戻りました。しかし目的はかなったので満足でした。

もう一つの満足は、ルートバートラックの途中キー・サミット (919m) 展望台への道で小さなニュージーランド・エーデルワイス (*Leucogenes grandiceps*) を見つけたことです。これはとてもラッキーだったと思います。岩の窪地に3~4cmの位の高さに小さな花をつけて咲いていました。その他、印象に残ったことはこの地方一帯の湖は乳白色がかかったコバルトブルーでとてもすばらしい色合いです。氷河に含まれている岩石と関係あるのでしょうか。そのブルーに近い毛糸を見つけたので記念に買い、勝手にニュージーランドブルーと名づけ、思い出にしています。またどのルート歩いてもアメの紙ほどのごみも落ちていませんでした。

それにしても植物の名前は複雑だと思いました。ササでないのにユキザサ、ヤチブキとかノブキなど葉が似ている故についた名も多いと改めて思いました。シュウメイギクもキンボウゲ科なのにキクという名が付いてややこしいです。やはり「時には、学名を見る必要もありますよ」と教えてくださった先輩N氏の声が聞こえそうです。



小川の両側はマウントクックリリーの群落 (小川は写真の左の白いところ)

忘れ得ぬ花たち

当麻町 野呂 一夫

黄色い軍団＝ブタナ＝

確か1959年だったと思う。まだ砂利道の国道237号線をバイクで富良野市の東大演習林近くを走っていた。右手の路肩から黄色い花が、サングラスの奥とび込んだ。タンポポとは違うなと直観したので車を返した。

「何だこれは？」。キク科であるのは一目で分かるが、初めて見る植物だ。貴重な花とばかり、大事に採集して標本にした。名を知ったのもしばらく後のことだが、植物を研究している先輩がある時、「珍しいから庭に植えようと思ったことがある」と言った。そしてお互いに、植えなくてよかったなと、苦笑しながら当時を述懐したものである。

別名のタンポポモドキの方が通りよい、1933年札幌初見の帰化植物であるが、あれからわずか数十年、原野の至る所を席捲する黄色い軍団。今は昔の物語である。



追記

キバナコウリントンポポの上川管内での初見は、今から10数年前、南富良野町と日高町を結ぶ国道の金山峠の駐車場であった。この峠は幾度となく通り、この駐車場も利用していたがそれまで生育は確認していなかった。それからというもの、管内各所に姿を見ることとなり、確実に生育範囲を拡大している。他管内ではどんな状況なのだろうか。

湿原にて＝エゾゴゼンタチバナ＝

「分布は道東で針葉樹林帯に生育する」と記載されていたある文献が災いしてか、上川管内に自生はないものと思っていた。大雪山に入り始めた頃の、銀泉台の秋の夜、監視人のK氏から浮島湿原とこの花の存在を聞かされたのである。

翌年の7月、紙切れの地図を頼りに、初めて浮島湿原を訪れた。深い森林に抱かれ、苔をしとねに息づく植物の群れは、今まで見てきた湿原と趣を異にして、心をとらえて離さない。だが、いくら目を凝らしてもエゾゴ

ゼン —— は姿を見せなかった。

現地の状況を知らぬなら、案内人もいない。だから明日にでも生育場所を聞き直して再訪しようと、ひょいと目を移したアカエゾマツの根元に、



その花はあった。

背筋がゾクゾクとした。白色の4枚の苞に守られた小花は暗紫色で、花全体が引き締まって見える。小花も白色で、どこか寂しげなゴゼンタチバナとは違って、明るさがあり、力強ささえ伝わってくる。

新たな草木との出会いは、いかなる種類であっても感動を覚えるものだが、この時ほどの気持ちの高ぶりは、そうざらにはない。

※

一昔前まで、私は小中学校の教員をしていました。退職する3年前、私と同時に赴任した教頭先生は、毎日「路(ぢ)」のタイトルで校内情報紙を発行していました。ある時「何か原稿を……」と言われ、小文を載せました。そのうち、いつの間にかしばしば書くようになっていました。

一つは「雑感雑語」と題して、主に教育に関わりのあることを。また、教育とは直接関係はないけれども、先生方に少しでも自然や環境や植物に関心を寄せて欲しいと願い、「忘れ得ぬ花たち」を。この2本のシリーズをもって随時「路」の隙間を埋めていったのです。3年間も続けていると、取り上げた花の数は60種以上にもなっていました。

私と植物との出会いは、中学校1年生のクラブ活動にありました。図工や音楽は下手くそで、運動はからしき駄目だから、それらは選択の対象にはなりません。何とかかなりそうな所と、消去法で残ったのが科学クラブでした。ここで、顧問の先生から植物の手ほどきを受けたのでした。

それからの長い付き合い歴ですから、強く印象に残っている花は数多くあります。今回はシリーズ「忘れ得ぬ花たち」の中から、“出会い”を扱った数種類を若干の加除修正をして、駄文ながら以後数回「エゾマツ」に登場させて頂こうと思います。

山の名前の送り仮名について考えること

自分は登山前に必ず登る山について色々と下調べをするのですがその際、恥ずかしい話ですがパソコンに入力する際に、正確に覚えていると思っていたはずの読み方がいい加減で苦勞することが多々あります。例えば「大雪山」は「たいせつさん」なのか「だいせつさん」なのか？また「山」は「さん」「やま」「せん」、「岳」は「たけ」「だけ」と言ったり色々ですがその山の呼び名はその呼び名しかないので無理やり覚えることにしてます。それで、皆さん以下の山名どれ位読めますか？

1. 後方羊蹄山 2. 八幡平 3. 早池峰山 4. 月山 5. 飯豊山
6. 安達太良山 7. 燧ヶ岳 8. 男体山 9. 皇海山 10. 武尊山
11. 四阿山 12. 白馬岳 13. 鷲羽岳 14. 美ヶ原 15. 蓼科山
16. 甲武信ヶ岳 17. 瑞牆山 18. 空木岳 19. 間ノ岳 20. 聖岳
21. 光岳 22. 大山 23. 開闢岳 24. 韓国岳 25. 石鎚山

これ等は深田久弥の日本百名山中の25山名です。

この内7.9.10.11.21.等が難名ベストファイブでないかと思えます。

自分は10数年前岩手県と秋田県の県境にある2.を訪れた時

「はちまんだいら」と当時盛んであったアマチュア無線で言い続け

て後で赤面の至りであったことを今でも思い出します。

また、12.の「白馬岳」は白馬村「はくばむら」に在るのですが山名はこれまた送り仮名が違うので、小説、テレビ、登山案内書等でも間違いと言えるかどうか分かりませんが区別しない使い方がみられます。きっと現地の現場や標識等を見ないで思い込みでストーリーや情景を描いているのではと思ってます。それから「富士山」ですが我々日本人は「ふじさん」と呼びますが、外国の人は大体が「ふじやま」と呼んでいるようです。自分は今までの反省から、登山口や山小屋で出来るだけ再確認するようにしています。

自然観察とは全く関係のない話になってしまいましたが雑文としてお読みいただければ幸いです。

平成18年1月7日

南部 栄一

読み方の正解？です。

- 1.しりべしやま 2.はちまんたい 3.はやちねさん 4.がっさん
- 5.いいでさん 6.あだたらやま 7.ひうちがたけ 8.なんたいさん
- 9.すかいさん 10.ほたかやま 11.あずまやさん 12.しろうまだけ
- 13.わしばだけ 14.うつくしがはら 15.たてしなやま
- 16.こぶしがたけ 17.みずがきやま 18.うつぎだけ
- 19.あいのだけ 20.ひじりだけ 21.てかりだけ 22.だいせん
- 23.かいもんだけ 24.からくにだけ 25.いしづちさん

地図はこう読もう

歩行時間が短く、低い山でも、地図を持っていれば山登りはもっと楽しくなる。いさというときには心強い味方にもなってくれる。基本的な読図法はぜひ憶えておこう。

地図は2タイプ

山登りに使われる一般的な地図は、おおまかに地形図と登山地図の2種類に分けられる。

地形図は国土地理院が発行する地図の一種で、山では主に2万5千分の1地形図と5万分の1地形図が使われている。両者では縮尺の大きさが違っていて、1kmの水平距離が5万分の1地形図上では2cmに、2万5千分の1地形図上では4cmになる。当然、精度は2万5千分の1地形図のほうが高く、地形を読みとりやすい。

雪のない時期に人気の一般コースを歩くのなら5万分の1地形図で十分。ただ5万分の1地形図では縮尺が小さくて情報が拾えないような短いコースの場合は2万5千分の1地形図がいい。

一方の登山地図は、出版社や地図会社が発行する山登り用の地図。縮尺はだいたい5万分の1前後、一枚で1エリアがカバーされている。コースタイムや山小屋、アドバイスなどが地図上に記され、図面はカラー。破れにくい耐水性の紙が使われているので雨にも強い。初心者には、必要な情報が一枚に盛り込まれている登山地図のほうが見やすいだろう。

地図は情報の宝庫

文字(地名)と等高線、記号で成り立つ地図は山の情報の宝庫。見方を覚えれば、1枚の地図からたくさんの情報を引き出せる。

地図のなかでも、いちばん役に立つ情報が等高線。等高線というのは同じ標高地点を結んだ線のこ

とで、線と線の間隔が狭ければ狭いほど斜面の傾斜は急になる。その逆はなだから。

また、等高線が標高の高いほうから低いほうへと張り出しているのが尾根、逆に低いほうから高いほうへ食い込んでいるのが谷や沢だ。さらに等高線の形状によって、尾根や谷の形状、ピークや峠(鞍部)なども判別できる。

等高線以外では凡例に注目したい。記号で表わされている目標物や地形(三角点や植生、道路、送電線、水系など)は、実際の山登りでの重要な目印となるからだ。

こうした情報が読み取れるようになると、地図に目を通すだけで現地の状況を思い描くことができるようになる。おおまかなコースタイムを予測することも可能だ。

いまどこにいる？

山でいちばん地図が多用されるのは、現在地を確認するとき。

たとえば山を登っている途中で沢を渡ったとしよう。そこで地図を広げてみると、渡った沢が確認できる。それによって、どれくらい歩いてきたのか、目的地まであとどれくらいなのか視覚的にわかる。また、分岐点でどちらが正しいルートか判別しづらいときも、地図で現在地を確認すれば進むルートが一目瞭然のはずだ。

地図はコンパスとセットで使用するのが基本。地図を見るのは頻繁であればあるほどよく、少なくとも休憩のたびに見るようにしたい。ウェアのポケットやザックの雨ふたの中など、すぐに取り出せるようにしておこう。

こまめに現在地を確認していれば、まず道に迷うことはない。たとえ迷っても、たどってきたルートを引き返すだけで、最後に現在地を確認した地点、つまり正しいルートにもどることができる。



▲分岐点で迷ったときは地図で確認

山座同定をする

登り着いた山の頂からは大パノラマが広がり、周囲の山々が一望のもと。そこで地図を取り出して、目の当たりにしている山々の名前を調べてみよう。この、地図上で山の名前を確認する作業を山座同定という。

山座同定の方法はいたって簡単。コンパスが示す方位に合わせて地図を置き、実際に見える山と地図を見比べて、その山の名前を地図で判明させればよい。

山座同定を楽しむには、地形図や登山地図では縮尺が大きすぎて周囲の山々を十分にカバーできないことが多い。国土地理院が発行する20万分の1地勢図を用意しておくといいだろう。

恵庭市 小林英世

野幌森林公園自然ふれあい交流館

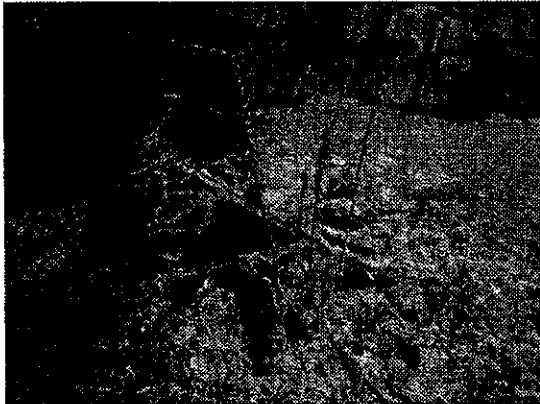
通信員：濱本真琴
 〒069-0832 北海道江別市西野幌685-1
 電話：011-386-5832
 HP <http://www6.ocn.ne.jp/~fureai-k/>

動画をご覧になれます (by HTB)

02.9.23 森は秋の香り

02.4.23 森は春の輝き

今日のH2O「演出」



寒い朝も素敵！

最近冷え込むことが多くなり、遊歩道の水溜りでは、いろいろな状態の水が見られました。

「水」「氷」「雪」が同時に一箇所で見られたのが、感激でした！昔、理科の授業で「水は個体、液体、気体に・・・」なんて聞いたことがあるような。

この季節、自然ふれあい交流館の湿度は20%になってしまい、加湿器全開です。しかしとても追いつかないので、バケツやら霧吹きで「気体の水」を増やしています。(2005/12/03 12:20)

今日のいいにおい「ジャム？」



100%コクワ！

遊歩道の脇に落ちていた黄緑色のかたまり、大小あわせて4個ありました(写真)。キツネがしたウンチのようです。

よ～く見てみると、黒いつぶつぶがたくさん見えます。においをかぐと「う～んいい匂い！」まるでジャムのようなおいしい匂いがします。地面に落ちたコクワ(サルナシの実)を食べたんでしょうね。100%コクワ入りウンチは、この季節ならではの落し物です。(2005/11/30 12:00)

今日の秋&冬「光の演出」

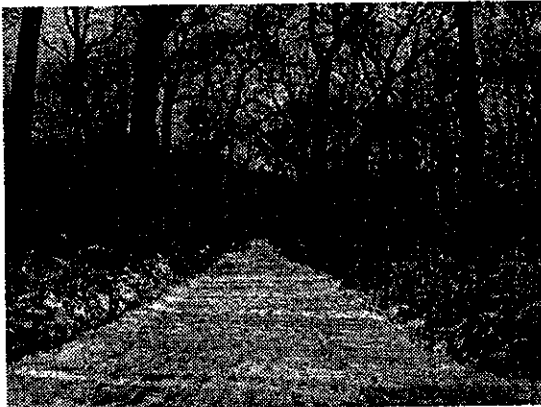


もうすぐ落ち葉も見られなくなります

落ち葉が降り積もった森の中は、光が差し込みとても明るくなっています。木々を飛び交う鳥たちの姿やエゾリスも見えやすくなりました。立ち止まると、あちらこちらで「かさっこそっ」と生き物達の存在を感じられます。

雪と霜がついた落ち葉に光があたり、この季節ならではの芸術品を見ることができました。遊歩道には所々雪が積もっていますので、水のしみない靴がおすすです。(2005/11/25 11:13)

今日の遊歩道「シャ〜ベット」



森の入り口(大沢口)

▲▲▲
昨日はいろいろな天気を体験することができました。雨、みぞれ、雪、あられ、雷。
今日の遊歩道は長靴がお勧めです。少し融けかかったシャ〜ベット状なので歩くたびに「シャクシャク・ばしゃばしゃ」と面白い音が聞こえます。

木々の枝から融けた雪がぼたぼた落ちてくるので、傘をさしていると、上からも下からも音が楽しめますよ。(2005/11/20 16:17)

今日の雪景色「クリスマス?!」



クリスマス色?お正月色?

▲▲▲
昨日降った雪は、多いところで10センチ積もりました。湿気を含んだ大粒の雪で、傘が重たくなるほどです。

森の中はササの緑色や落ち葉の色、地面の色など、「秋色」と雪の「冬色」がちょうど混ざっているのので、お得な感じがします。

つぼみのあるツルシキミにも雪がこんもりと積もっていて、「クリスマス色」になっていました。

次はどんな色が見つかるか、森の中を歩くのがとても楽しみです。(2005/11/17 13:35)

北海道・自然情報

過去の情報

私達のこと

HTB

ボラレン情報

《2～3月の観察会》

- ◆藻岩山登山観察会 2月5日(日) 10:00~14:30

集合場所 慈恵会登山口 弁当持参(踏み跡しっかりして歩いて歩きやすい)

- ◆天狗山東斜面(小樽支部主催) 2月19日(日) 8:30集合

集合場所 天神浄水場前広場(カンジキが必要です。弁当持参)

- ◆野幌の春をさがそう 3月26日(日) 10:00~12:00

集合場所 野幌森林公園ふれい交流館

- ◆赤岩山(小樽支部主催) 3月26日(日) 8:30集合

集合場所 赤岩2丁目路線バス停サクス前(要カンジキ 弁当持参)

(小樽支部主催の行事については北原宅☎ 0134-27-1701 へ問合せ下さい)

《研修会》

- ◆テーマ「木についているもの話」 3月26日(日) 13:00~

講師 研修部長 小林 英世 氏

場所 野幌森林公園ふれい交流館

(午前中の観察会終了後、1年間の観察会反省も含め実施します。多くの会員の参加を期待しています)

役員改選にあたって

平成18年度は、役員改選期にあたります。4月に予定されている総会において、役員改選の提案をすることになっています。今年度より、役員選考委員のもとで人選をすすめることになっています。そこで、会員の皆さんの自薦・他薦をもとに、選考委員が総会に計る役員名簿を作成することとしました。

本会も20周年の節目を迎えるこの年に、新しい役員のもとで活動をすすめるため、多く自薦・他薦を事務局(田村 ☎・FAX 011-791-0127)まで寄せてくださいますようお願いいたします

編集後記

- ・全道各地の仲間から多くの原稿をいただき、広報部としてはとても感謝しています。
- ・伊達の木村益巳さんから「広報」の発行のあり方について貴重な意見をいただきました。パソコンの技術の向上をめざしながら広報部でよく検討して、よりよい紙面をつくっていきたいと考えています。
- ・今回から小泉三雄さん、南部栄一さん、野呂一夫さんをお願いして1年間4回連載していただくことになりました。山、樹木、草花などいろいろな面から自然への出会いや想いを書いていただけたと思っています。
私は若い時、旭川に住み大雪の山々を登ったりしていたので、野呂一夫さんの若い頃の著作「大雪の高山植物」（「道新」）を何回も読んでいました。
- ・野幌森林公園のふれあい交流館の濱本さんがホームページでこの「森林公園」の四季の移り変わりを美しい写真とすてきなコラムで紹介しています。それらが「朝日新聞」に掲載され、楽しみに読んでいます。今回、濱本さんをお願いしてその原稿をいただきました。
- ・昨年はアインシュタインが特殊相対性理論を発表して100年目にあたり、それを記念していろいろな行事がおこなわれた国際物理年でした。彼はニュートンの肖像を自宅に飾りながら、「自然という一冊の書物をなんなく解読した」という意味のことをいっているそうです。
私たちの活動の中心である〈自然解説〉もささやかながらも大きな「自然の書物」を読み解くという仕事の一端を担っているのかもしれない。そう考えると別な力が湧いてくるようでもあります。(S)

第75号 冬季号
発行日 2006年1月19日
会長 川端 功治